郵便

フォト劇場（47）

写真が生むものがたり

多羅葉に般若心経二行書き郵便受けに入れし人あり

役重隆子

四年前の或る日、般若心経を記す多羅葉一枚が郵便受けに入っていた。今も大事にしまってある。葉の緑は失せて練色になったが、文字は褪せていない。いにしえからの郵便のように優しい墨色のままである。

バス一本遅らせば済むことなのに封書持つまま飛び乗つた吾れ

関矢展子

コスモス詠草のことであるが、投函の機会なく着いたひなびた温泉地は、駅前にポストは無く、あわてる私にこの地域土日は郵便物の収集は行わないと宿の人は言う。投函は女将に託したが詠草は何日の遅刻だったか。

写真・木畑紀子

時空負ひ届かむもののゆかしさに日々覗くなり郵便受けを

木内賢隆

二〇〇一年に日本語を教えた長春師範学院の教え子から二十年ぶりの便りが届いた。よく熟れた日本文であった。東京に住み、子供がいるという。聡明な女子学生の面影と時の流れとを思ったことだった。

あれはきつとトングリ砂漠の消印が付いたハガキだ待つてゐたんだ

永田恵美

中国の内モンゴルのトングリ砂漠に横幅5メートル、縦幅3メートルの小さな郵便局がある。長い間廃墟だったのを3年前に有志が再建し運用が始まった。今、世界中からその消印を求めて郵便物が殺到しているという。